

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成30年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名		敬老事業				②事業番号		4510	
③事業類型		3. 政策推進事業		④開始年度		— 年度		⑤終了予定年度	
⑥根拠法令等		法令		⑦実施手法		直営		⑧関連予算科目コード	
⑦実施手法		〇全部委託		一部委託		〇補助・負担		⑨担当部名	
⑧関連予算科目コード		款		3		項		1	
⑨担当部名		健康福祉部		⑩担当課名		長寿社会推進課		⑪会計	
								一般会計	

2. 事務事業の現状把握【DO】

【1】事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)		対象指標(対象者数を表す指標)		単位	
① 75歳以上の泉南市民		① 人数(3月31日現在)		人	
②		②			
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)		活動指標(活動の量を表す指標)		単位	
長年にわたり社会に貢献された高齢者を敬愛するため、以下の事業を実施する。 1)金婚式を祝う会の開催 2)百歳到達祝い品の支給 3)敬老祝い品の支給		① 金婚式開催数		回	
		② 百歳到達者高齢者祝い数		回	
		③ 敬老祝い品対象地域		地域	
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)		成果指標(意図の達成度を表す指標)		単位	
長年にわたり社会に貢献された高齢者を敬愛する。		① 金婚式出席者		組	
		② 百歳到達者		人	
		③ 敬老祝い対象高齢者		人	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)		総合計画体系上の位置付け			
高齢者の福祉増進に寄与する。		政策(章) 2 みんなが健やかで、みんなが助け合うまち			
		施策大(節) 3 みんなで支えあう福祉のまちをめざします			
		施策中 2 高齢福祉の充実			
		施策小 3 自立支援・生きがいづくり			

【2】各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	H31見込	R2目標	
対象指標①	人数(3月31日現在)	人	7,834	8,170	8,654	8,700	—	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標②								
活動指標①	金婚式開催数	回	1	1	1	1	—	
活動指標②	百歳到達者高齢者祝い数	回	12	9	8	15	—	
活動指標③	敬老祝い品対象地域	地域	31	32	30	30	—	
成果指標①	金婚式出席者	組	36	42	36	55	—	
成果指標②	百歳到達者	人	12	9	8	15	—	
成果指標③	敬老祝い対象高齢者	人	3,400	4,100	4,349	4,400	—	
事業費	投入人員	人	0.50	0.27	0.27	0.56		事業費などの推移における 特殊要因などの説明
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.50	0.50	0.50	0.50		
	人件費(投入人員*単価)	千円	3,030	3,007	3,021	5,372		
	直接事業費	千円	9,157	6,961	6,306	7,560		
	総事業費	千円	12,187	9,968	9,327	12,932		H28については、プログラム更新費用が生じたため。
財源内訳	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
	受益者負担金	千円	0	0	0	0		
	その他特定財源	千円	4,500	4,740	5,000	6,655		
	一般財源	千円	7,687	5,228	4,327	6,277		

【3】事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	長年にわたり、社会に貢献された高齢者を敬愛し、高齢者の福祉の増進に寄与するため。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	高齢化の進展に伴い、対象者が増加している。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	金婚式の内容を検討の上、敬老事業についてプログラム処理を実施した。

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	超高齢社会に対応し得る体制の構築には、第一義的に自助の取組によるところが非常に重要であり、敬老事業を実施することにより、高齢者個々人の生きがいを創出することができる。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	超高齢社会に対応し得る体制の構築の責任主体は行政にある。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	過去と比較し、H28より対象範囲を縮小して実施している。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	長年にわたり社会に貢献された高齢者を敬愛し、高齢者の福祉の増進に寄与することによって、自助の取組を誘発し、高齢者個々人の生きがいを創出することができる。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

B

⑤期待どおりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	予算等の縮減のなかで、高齢者のニーズどおりの成果をあげることは、非常に困難である。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができませんか。)	ア. ある イ. ない	事務の簡素化を図るなど事務量の軽減を図る。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できませんか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	—

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

B

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	事務の簡素化。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	高齢者への敬老事業のため、受益者負担はなじまない。

4. 総合評価

総合評価	評価(A～D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A:現状のまま事業を進めることが適当 B:事業の進め方に改善が必要 C:事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D:事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	B	高齢者の増加に伴い事業費増となるため、事業の進め方に改善が必要。	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

イ	ア. 現状のまま継続	イ. 見直しのうえで継続	ウ. 終了 ↓ (年まで)	エ. 休止 ↓ (年から)	オ. 廃止 ↓ (年から)
	↓ <今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)				
①改革、改善の具体案、実施年度など		令和元年度に敬老会事業について、事業の進め方を検討する。			
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		地域の互助の取組の啓発。			